

日銀は政策金利を1.0%に据え置くも、1名が利上げを提案

- 日銀は政策金利を1.0%に据え置くも、1名が利上げを提案
- 経済見通しを上方修正の一方、物価見通しは下方修正
- 植田総裁の会見で利上げ時期前倒し機運が高まるか注目

■ 日銀は政策金利を1.0%に据え置き

日銀は7月30-31日の金融政策決定会合で、政策金利（無担保コール翌日物金利）を1.0%に据え置くことを賛成8・反対1で決定。同時公表の展望レポートでは、AI投資拡大や原油の代替調達進展などを受け、成長率見通しを上方修正した一方、物価見通しは足元で低位安定する消費者物価などに伴い、2026年度を下方修正しました（図1）。ただし、「2026年度後半以降は2%をはっきりと上回る水準まで伸び率が高まると予想」とし、物価上振れリスクへの警戒感を改めて示しました。

■ 日銀への利上げ前倒し圧力が高まる

今回の会合は、前回6月会合での利上げ決定から1カ月しか経過しておらず、利上げによる経済や物価、金融市場への影響を見極める局面にあると言えます。ただし、市場では「骨太ショック」で金利上昇・円安進行が加速して以降、日銀の追加利上げ前倒し期待が高まっています（図2）。為替市場では、日銀のインフレ対応の遅れへの懸念から円が一時1米ドル164円に迫るなど、円安進行が更なるインフレ圧力となる中、市場が見込む政策金利の最終到達点は2%を超え一段と上昇しています（図3）。

足元、原油高や円安定着によるインフレ率押し上げ圧力は限定的ではあるものの、輸入物価など川上の物価は既に急上昇。企業の価格転嫁が進展する下、今秋以降は政策によるインフレ抑制効果のはく落もあり、物価上昇が本格化する見通しです。市場が見込む10月会合での利上げ確率が急上昇するなか、同月の展望レポートが次なる政策判断の重要なタイミングになるとみまます。

■ 総裁の物価上振れリスクへの評価に注目

植田総裁の記者会見では、利上げ時期前倒しを意識させるシグナルが示されるかに注目です。その上で、先行きの物価上振れリスクをどの程度強調するかが注視されます。仮に、今後の利上げペース加速に慎重姿勢が示されれば、30日夜の円買い介入（の可能性）による円高は一時的にとどまり、再び円安地合い回帰となるでしょう。また、閣議決定された「骨太の方針」を踏まえ、日銀の独立性に関する発言にも注目です。（大畑）

【図1】7月展望レポートは成長率見通しを上方修正

日銀 経済・物価情勢の展望における見通し（中央値）比較
〈上段：2026年7月、下段：2026年4月〉

単位(%)	2026年度	2027年度	2028年度
実質GDP 成長率	+0.6	+0.8	+0.8
	+0.5	+0.7	+0.8
インフレ率 (除く生鮮食品)	+2.5	+2.4	+2.0
	+2.8	+2.3	+2.0
インフレ率 (除く生鮮食品・ エネルギー)	+2.5	+2.6	+2.2
	+2.6	+2.6	+2.2

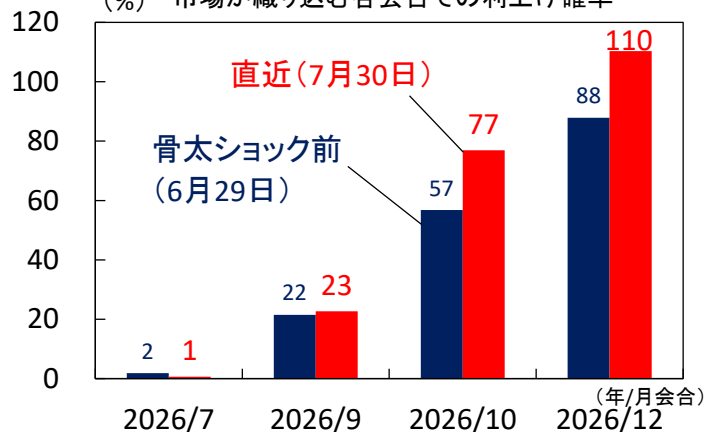
注) 日銀政策委員見通しの中央値。

■は上方修正、■は下方修正（前回2026年4月見通しとの比較）。
実質GDP成長率とインフレ率（消費者物価）は前年比ベース。

出所) 日本銀行より三菱UFJアセットマネジメント作成

【図2】円安に歯止めかからず市場は利上げ前倒しを見込む

(%) 市場が織り込む各会合での利上げ確率



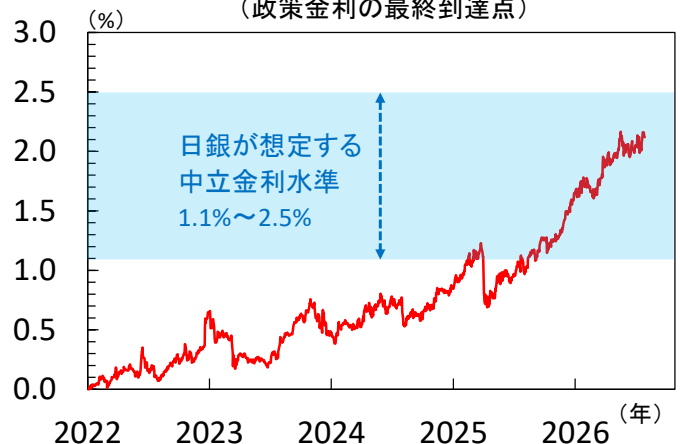
注) 現行水準（1.0%）からの利上げ確率。OIS市場より算出。

100%超は現行水準から0.25%以上の利上げ織り込みを示す。

出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

【図3】市場が織り込む利上げの終着点は一段と上昇

市場が見込むターミナルレート
(政策金利の最終到達点)



注) 2年先1年物OISフォワードレート。直近値は2026年7月30日。

出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント ストラテジック・リサーチ部リサーチグループの見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会

Mitsubishi UFJ Asset Management